

2023 年度
(令和 5 年度)

世田谷区立松沢中学校
学校関係者評価報告書

2024 年 2 月 16 日
世田谷区立松沢中学校
学校関係者評価委員会

目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 調査の結果 | 2 |
| 2. 調査概要 | |
| 2-1 互いを尊重し、認め合う「心」を育む教育の推進 | 2 |
| 2-2 確かな「社会力（これからの社会を生き抜く力）を育む教育の推進 | 4 |
| 2-3 自ら学ぶ力、探究的な「学び」の推進 | 6 |
| 2-4 信頼と誇りの持てる教育の推進 | 8 |
| 3. 全体を通しての所見 | |
| 3-1 概観 | 10 |
| 3-2 昨年度の課題への対応について | 10 |
| 3-3 本年度の課題点 | 11 |

1. 調査の結果

本報告書は、2023年4月1日に配布された「世田谷区立松沢中学校学校経営方針」の「令和5年度重点目標・数値目標」を中心に検討した。検討にあたっては、学校経営方針の重点目標を小項目ごとに分類し、これに対応するように節を分けた。また、回答傾向によっては「わからない」と回答された数値を活用したものがある。これについては、表内に数値を括弧内で示した。

なお、本年度も保護者に関しては昨年度に引き続き Google Forms による回答方式が採用されたが回答率は停滞している(令和3年度:90%程度→令和4年度:40%程度→令和5年度:56%程度)。

2. 調査概要

2-1 互いを尊重し、認め合う「心」を育む教育の推進

■ 「学校生活は、楽しい。」

| 生徒6. 全般について (1)学校生活は、楽しい。 | | | |
|------------------------------|------|------|------|
| | R3年度 | R4年度 | R5年度 |
| 1年生 | 86 | 85 | 91 |
| 2年生 | 94 | 90 | 85 |
| 3年生 | 94 | 92 | 89 |
| 合計 | 91 | 89 | 88 |

【生徒6-(1)】「学校生活は、楽しい」という質問項目の肯定的回答は全体で88%(-1%)と、生徒の学校に対する「総合的評価」といえる質問項目について、引き続き高い評価が得られた。

学年別で見ると、1年生の肯定的回答が91%(+6)と90%を超えた。

学校の教育活動の主ともいえる、学習指導、生活指導などが特に評価が高く、本校

の教育活動が生徒の学校生活の質によく反映されている。これに加えて、1年生については教員との関係性に関する評価が特に高い傾向があった。

■ 「先生たちは、相談がしやすい。」

| 生徒5. 先生について (2)先生たちは、相談がしやすい。 ※()は「わからない」と回答した割合 | | | |
|--|--------|--------|--------|
| | R3年度 | R4年度 | R5年度 |
| 1年生 | 64(13) | 65(16) | 84(2) |
| 2年生 | 64(9) | 66(14) | 75(7) |
| 3年生 | 71(6) | 79(3) | 61(14) |
| 合計 | 67(9) | 71(11) | 73(8) |

【生徒5-(2)】「先生たちは、相談がしやすい」という質問項目の肯定的回答は、全体で73%(+2%)となった。

学年別で見ると、3年生の肯定的回答が61%(-18%)と減少したが、1年生の肯定的回答は84%(+19%)、2年生は75%(+9%)と、ともに向上したことが全体の評価改善に影響した。

経年変化で見ると、「わからない」と回答した現3年生の生徒が1年次から解消さ

れずに3年生まで残った。3年生は、進路指導など教員への相談が増えるため、例年、他の学年に比べて肯定的回答がもっとも高く出ていたが、今年度は2年次の66%から61%(-5%)に減少した。

生徒へのヒアリングでは、生徒が相談できるチャンネルを広げる目的で実施されているハートフル面談の実施について、肯定的な意見が多く聞かれた。この活動は、次年度以降もぜひ継続していただきたい。なお、現状、3年生は日程的な制限もあり、ハートフル面談は実施されていない。現状のように10月の5日間という特定の時期に実施するのではなく、生徒と教員とが相談しながら実施時期を決めるような方法を採用することができれば、3年生にも面談の機会を用意することができると思われる。

このほか、「普段担任の先生と話す機会が少ないので、担任の先生ともっと話したい」、「ハートフル面談でしか相談しないため、相談する機会は増えていない」など、ハートフル面談とは別に、普段から担任との関係を構築したいという生徒の要望も複数聴くことができた。

■ 「先生は、生徒の意欲を大切にしている。」

| | | | |
|---|------|------|------|
| 生徒3. 学校行事について (3) 先生は、生徒の意欲を大切にしている。 | | | |
| | R3年度 | R4年度 | R5年度 |
| 1年生 | 86 | 88 | 95 |
| 2年生 | 92 | 88 | 87 |
| 3年生 | 91 | 93 | 82 |
| 合計 | 90 | 90 | 88 |

【生徒3-(3)】「先生は、生徒の意欲を大切にしている」という質問項目の肯定的回答は、全体で88%(-2%)となり、引き続き高い評価を維持した。

学年別で見ると、1年生は、95%(+7%)と昨年度より高く、過去3年で最も高い評価となったが、3年生は、82%(-11%)と昨年度より下がった。

これと関連して、【生徒5-(1)】「先生たちは、生徒にいていねいに指導している」とい

う質問項目の肯定的回答は、学年別で見ると、1年生99%(+13%)、3年生82%(-12%)となっており、本質問項目と類似した変化がみられた。

- 「私は、思いやりの心や認め合う心をもって友達や他の人と接している。」

| | | | |
|---|------|------|------|
| 生徒独自 (1)私は、思いやりの心や認め合う心をもって友達や他の人と接している。 | | | |
| | R3年度 | R4年度 | R5年度 |
| 1年生 | 90 | 88 | 90 |
| 2年生 | 91 | 90 | 85 |
| 3年生 | 92 | 94 | 90 |
| 合計 | 90 | 91 | 88 |

【生徒独自-(1)】「私は、思いやりの心や認め合う心をもって友達や他の人と接している」という質問項目の肯定的回答は、全体で88%(-3%)となった。
全体で見ると、直近3年、90%前後を推移しており、生徒の自己評価は高い。

2-2 確かな「社会力(これからの社会を生き抜く力)」を育む教育の推進

- 「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」

| | | | |
|---|------|------|------|
| 生徒2. 生活指導について (1)私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。 | | | |
| | R3年度 | R4年度 | R5年度 |
| 1年生 | 88 | 90 | 91 |
| 2年生 | 86 | 92 | 86 |
| 3年生 | 89 | 94 | 92 |
| 合計 | 88 | 92 | 90 |

【生徒2-(1)】「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」という質問項目の肯定的評価は、全体で90%(-2%)となった。
生徒の自己評価である本質問項目については、昨年度に引き続き肯定的評価が高い。

- 「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。」

| | | | |
|--|------|------|------|
| 生徒2. 生活指導について (2)先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。 | | | |
| | R3年度 | R4年度 | R5年度 |
| 1年生 | 85 | 91 | 93 |
| 2年生 | 86 | 83 | 87 |
| 3年生 | 83 | 91 | 80 |
| 合計 | 85 | 88 | 87 |

【生徒2-(2)】「先生は学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」という質問項目の肯定的回答は、全体で87%(-1%)となった。
学年別で見ると、1年生は93%(+2%)、2年生は87%(+4%)と、過去2年と比較して最も高い肯定的評価を得た一方、3年生は80%(-11%)に留まった。3年生が【生徒2-(1)】で自身はルールについて考えて

行動しているとしているという回答が最も高かったにも関わらず、本質問項目では最も肯定的評価が低かった。

■ 「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる。」

| | | | |
|---|-------|-------|-------|
| 生徒 2. 生活指導について (3)私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる。 | | | |
| | R3 年度 | R4 年度 | R5 年度 |
| 1 年生 | 92 | 78 | 94 |
| 2 年生 | 92 | 85 | 82 |
| 3 年生 | 85 | 93 | 79 |
| 合計 | 90 | 85 | 85 |

【生徒 2-(3)】「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる」という質問項目の肯定的回答は、全体で 85%(±0%) と、引き続き高い評価を得た。

学年別で見ると、昨年と同様に学年ごとの差が大きく、特に 1 年生においては 94%(+16%)と増加したのに対し、3 年生では 79%(-14%)と減少した。

また、経年変化で見ると、3 年生が 1 年生の時に 92%が肯定的回答をしていたものの、これが断続的に低下し、80%を切った。

【生徒 2-(1)~(3)】を総合して考察すると、生徒の自己評価はどの学年でも高かった一方、考えさせる指導、ルールについて理解できる(納得できる)といった指導のあり方についての質問項目において、3 年生の肯定的評価が低かった。

生活指導については、生徒に考えさせる指導がルールの理解(納得)に結びつくことが期待される。こうした指導観の共有を、学年を超えてあらためておこないたい。

■ 「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」

| | | | |
|--|-------|-------|-------|
| 生徒 4. キャリア教育について (2)自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。 | | | |
| | R3 年度 | R4 年度 | R5 年度 |
| 1 年生 | 40 | 93 | 57 |
| 2 年生 | 96 | 83 | 74 |
| 3 年生 | 78 | 95 | 81 |
| 合計 | 72 | 91 | 72 |

【生徒 4-(2)】「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」という質問項目の肯定的回答は、全体で 72%(-19%)と大幅な減少となった。

学年別にみると、肯定的評価は 57%(-36%)、74%(-19%)、81%(-14%)とそれぞれ大幅に減少し、かつ学年ごとの評価にばらつきが生じた。

経年変化で見ると、特に 2 年生は昨年度の 93%から 74%(-19%)に減少した。

■ 「私は自分からあいさつをしている。」

| 生徒独自 (2)私は自分からあいさつをしている。 | | | |
|-----------------------------|------|------|------|
| | R3年度 | R4年度 | R5年度 |
| 1年生 | 84 | 86 | 82 |
| 2年生 | 84 | 92 | 84 |
| 3年生 | 84 | 96 | 85 |
| 合計 | 84 | 90 | 84 |

【生徒独自-(2)】「私は自分から挨拶している」という質問項目の肯定的回答は、全体で84%(-6%)となった。

経年変化でみると、特に3年生が92%から85%(-7%)に減少した。

■ 「わたしのクラスには、生徒同士で注意し合うことができる雰囲気がある。」

| 生徒独自 (3)わたしのクラスには、生徒同士で注意し合うことができる雰囲気がある。 | | | |
|--|------|------|------|
| | R3年度 | R4年度 | R5年度 |
| 1年生 | 78 | 71 | 78 |
| 2年生 | 71 | 83 | 77 |
| 3年生 | 86 | 80 | 75 |
| 合計 | 78 | 79 | 77 |

【生徒独自-(3)】「わたしのクラスには、生徒同士で注意し合うことができる雰囲気がある」という質問項目の肯定的回答は、全体で77%(-2%)となった。

学年別では大きな差は見られないが、経年変化でみると、2年生は77%(+6%)増加したものの、3年生は83%から75%(-8%)に減少した。

2-3 自ら学ぶ力、探究的な「学び」の推進

■ 「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」

| 生徒1. 学習指導について (2)先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。 | | | |
|---|------|------|------|
| | R3年度 | R4年度 | R5年度 |
| 1年生 | 91 | 90 | 95 |
| 2年生 | 88 | 89 | 93 |
| 3年生 | 91 | 92 | 88 |
| 合計 | 90 | 90 | 92 |

【生徒1-(2)】「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している」という質問項目の肯定的回答は、全体で92%(+2%)と高い評価を得た。

全ての学年がほぼ90%に達しており、学年による差も少ない。

■ 「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。」

| | | | |
|--|-------|-------|-------|
| 生徒 1. 学習指導について (3)授業では、考えたことを話し合ったり、 発表し合ったりする機会がある。 | | | |
| | R3 年度 | R4 年度 | R5 年度 |
| 1 年生 | 92 | 96 | 99 |
| 2 年生 | 88 | 93 | 94 |
| 3 年生 | 88 | 96 | 93 |
| 合計 | 90 | 95 | 95 |

【生徒 1-(3)】「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」という質問項目の肯定的回答は、全体で 95%(±0%)と、引き続き高い評価を得た。学年による差も、少ない。

これに関連して、【生徒 1-(1)】「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている」という質問項目の肯定的回答でも、全体で

94%(-1%)と高い評価を得た。

生徒へのヒアリングでは、どの学年も授業内で話し合いの機会が設けられており、「話し合いや発表がある授業の方が楽しい」という意見を複数聴くことができた。

■ 「先生は、映像やタブレットなどの ICT を活用し、分かりやすい授業をしている。」

| | | | |
|--|-------|-------|-------|
| 生徒 1. 学習指導について (4)先生は、映像やタブレットなどの ICT を 利用し、分かりやすい授業をしている。 | | | |
| | R3 年度 | R4 年度 | R5 年度 |
| 1 年生 | 86 | 83 | 95 |
| 2 年生 | 92 | 92 | 81 |
| 3 年生 | 92 | 95 | 84 |
| 合計 | 90 | 90 | 86 |

【生徒 1-(4)】「先生は、映像やタブレットなどの ICT を活用し、わかりやすい授業をしている」という質問項目の肯定的回答は、全体で 86%(-4%)となった。

学年別にみると、2・3 年生が例年に比べてふるわなかったものの、1 年生は 95%の肯定的回答を得た。

経年変化でみると、2 年生は 83%から 81%(-2%)、3 年生は 92%から 84%(-

8%)と、昨年度よりも肯定的評価が減少した。

2 年生の生徒へのヒアリングでは、「同じ教科でも、先生によって ICT の活用方法が違う」という意見が複数聴かれた。学習指導に ICT をどのように採り入れるかについては、個々の教員の指導観の違いでもあり、利活用の仕方に差が生じること自体が悪いことではないが、そのような違いに生徒が敏感になっているということが看取できる。さらに、本質問項目が利用していることと、分かりやすさの両方を問うものになっている点も、分析を困難にしている。ICT の活用によって話し合ったり発表したりする機会は増え、それが楽しいという生徒の満足度を引き出すことができているが、それが学習内容そのものの分かりやすさにつながっているか、という点については、特に 3 年生になれば受験を控えてシビアに評

価するようになると考えられる。ICTの利活用の方法とその成果については、引き続き、検証していく必要がある。

2-4 信頼と誇りの持てる教育の推進

■ 「本校は、丁寧に指導している。」

| | | | |
|--|-------|--------|-------|
| 保護者 5. 教職員について (1) 本校は、丁寧に指導している。 ※()は「わからない」と回答した割合 | | | |
| | R3年度 | R4年度 | R5年度 |
| 1年生 | 76(9) | 80(12) | 82(7) |
| 2年生 | 80(9) | 56(24) | 78(9) |
| 3年生 | 89(6) | 96(2) | 88(5) |
| 合計 | 81(8) | 77(11) | 82(7) |

【保護者 5-(1)】「本校は丁寧に指導をしている」という質問項目の肯定的回答は、全体で82%(+5%)となった。

経年変化で見ると、3年生は56%から88%(+32%)に評価が改善した点が目を引く。「分からない」との回答が昨年度から大きく減り、それが肯定的評価に流れたとみられる。

保護者へのヒアリングでは、「熱心な先生が多い」、「先生たちは学校をよくしようとしてくれている」という声が複数聴かれ、保護者からの信頼は厚い。

■ 「本校は、ホームページやメールなどで保護者に情報を提供している。」

| | | | |
|---|------|------|------|
| 保護者 8. 学校からの情報提供について (2)本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。 | | | |
| | R3年度 | R4年度 | R5年度 |
| 1年生 | 92 | 84 | 96 |
| 2年生 | 95 | 82 | 82 |
| 3年生 | 93 | 100 | 88 |
| 合計 | 93 | 88 | 87 |

【保護者 8-(2)】「本校は、ホームページやメールなどで保護者に情報を提供している」という質問項目の肯定的回答は、全体で87%(-1%)となった。

昨年度の報告書において指摘された「すぐーる」による情報発信の多さについては、今回の評価そのものには影響を与えていないものの、保護者へのヒアリングでは、学校と教育委員会からの発信を分けられ

るようになったことで、「情報が見やすく、より便利になった」と、改善を前向きに評価する意見を多数聴くことができた。

■ 「本校は、地域の活動などに協力的である。」

| | | | |
|--|--------|--------|--------|
| 保護者 11. 地域との連携について (2)本校は、地域の活動などに協力的である。 ※()は「わからない」と回答した割合 | | | |
| | R3 年度 | R4 年度 | R5 年度 |
| 1 年生 | 46(39) | 55(37) | 59(28) |
| 2 年生 | 62(27) | 42(37) | 54(37) |
| 3 年生 | 70(17) | 69(28) | 46(37) |
| 合計 | 58(29) | 56(34) | 53(34) |

回答が他の質問項目に比べて多い。学校がおこなっている様々な活動が、「地域との連携」であると保護者に認識されていないようである。

【保護者 11-(2)】「本校は、地域の活動などに協力的である」という質問項目の肯定的回答は、全体で見ると 53%(-3%)となった。

学年別にみると、特に、例年、評価が高かった 3 年生保護者の評価が 46%と低かった。

学校は地域との連携に関わる活動を再開しつつあり、そうした情報も発信しているが、本質問項目は「分からない」とする

■ 「本校は避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。」

| | | | |
|---|-------|-------|-------|
| 保護者 12. 学校の安全性について (2)本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。 | | | |
| | R3 年度 | R4 年度 | R5 年度 |
| 1 年生 | 80 | 93 | 87 |
| 2 年生 | 93 | 84 | 79 |
| 3 年生 | 96 | 95 | 83 |
| 合計 | 89 | 91 | 83 |

子どもや保護者に提供している」の肯定的回答も、2 年生保護者は 87%から 70%(-17%)に減少した。

学校の安全性に関して、特に 2 年生保護者の評価が大きく低下した点は、その原因を今年度の調査では十分把握しきれなかったが、改善に向けた取り組みは必須である。とりわけ、大きな地震等、大規模災害に見舞われる可能性が指摘されている中で、これらの項目の肯定的評価は最大限に高めることが喫緊の課題である。

【保護者 12-(2)】「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」という質問項目の肯定的回答は、全体で見ると 83%(-8%)となった。

経年変化で見ると、現 2 年生が 93%から 79%(-14%)へと肯定的評価が急激に減少した。類似した質問項目である【保護者 12-(3)】「本校は、自然災害時の対応を

3. 全体を通しての所見

3-1 概観

生徒については、全体を通して引き続き高い評価が得られた。なかでも、板書やプリントなどの工夫、発表や意見交換をおこなう授業の展開など、授業に関する評価が極めて高い。学年別にみると、1年生の評価は多くの質問項目において高かった一方で、3年生については経年変化でみて、生徒指導や教員との関係性などで低下したものが目立った。

保護者については、昨年度よりアンケートの回収率も上がり、かつ学年ごとの差も縮小した。また、多くの質問項目で評価が改善した。特に、【保護者 5-(1)】「本校は丁寧に指導している」という質問項目の肯定的回答は 82%(+5%)と高い評価を得られた。さらに、【保護者 3-(1)】「学校行事は、子どもにとって楽しい」という質問項目の肯定的回答でも 90%(+2%)、【保護者 3-(2)】「学校行事は、子どもにとって達成感がある」という質問項目も、肯定的回答は 89%(±0%)と高い評価を得ることができた。

また、今年度は新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に引き下げられ、以前の学校生活に戻りつつある。学習指導や生活指導、学校行事等で高い評価を得つつ、さらに保護者や地域に対しても、松中祭で地域の人々が参加できるようにしたり、教育講演会を開催したりするなど、保護者・地域とのかかわりも回復する努力がなされている。

3-2 昨年度の課題への対応について

① 保護者への情報伝達の改善

評価には反映されなかったものの、保護者のヒアリングからは「すぐーる」の機能を活用し、得られる情報を整理できるようになったことに対して高く評価された。

② 教員への相談のしやすさ

主に1・2年生の生徒に対して高い評価を得た。生徒へのヒアリングでは、昨年度から実施されたハートフル面談に対する肯定的な意見を複数聴くことができた。保護者についても、同質問に対する評価は経年変化でみると、2・3年生ともに上昇し、生徒・保護者に対する相談についての改善がうかがえる。しかし、生徒へのヒアリングから、普段の学校生活における関係づくりを求める声があり、また保護者へのヒアリングでは「いつ誰に相談すればいいかわからない」といった意見が複数聴かれた。保護者については、電話での相談がしづらいことを考えると、相談受付のアドレスを設定するなどの対応も考えられよう。

③ アンケートの回収率

引き続き Google Forms での回答となったが、回収率は約 56%(+16%)と向上した。昨年度の問題であった、アンケート回答画面からのアクセス方法が改善されたことが回収率上昇の一因と考えられる。

3-3 本年度の課題点

① 学校経営方針の共有

ICTの活用や「あいさつ」や校則など生活指導面において、教員による対応の違いに関する不満が生徒から複数聴きとれた。本校に関わるすべての教員で、学校経営方針・取り組みの重点項目を共有することが必要である。

② キャリア教育の再構築

本年度の評価は、他校の取り組みに比べて大きく見劣りするものではない。しかし、これまでの実績に鑑みれば、取り組み次第でどの学年でも肯定的評価を90%程度にまで向上させることは可能なはずである。特に、1年生の入学時からキャリア教育に関する関心を高めること、そのモチベーションを維持することが大切である。今年度の指導上の課題点を洗い出して対応したい。

キャリア教育の要であるキャリア・パスポートについても、生徒へのヒアリングでは「意義が分からない」、「指示がクラスごとに全く違う」といった意見が聴かれた。キャリア・パスポートの指導内容・指示を統一し、また活用の意義についても丁寧に説明していきたい。保護者に対しても、同様にキャリア・パスポートの意義や活用の方法などを引き続き説明していくとともに、保護者の押印では必ずしも保護者に成果が届いているとは限らないため、保護者のサインにすることや、コメントを返していただくことについてのお願いをし続けることも大切であろう。また、校長がすべての生徒のキャリア・パスポートに目を通し、コメントをつけていることは積極的に評価したいところである。その成果や所感を、学校だよりや学年だより等で保護者向けにフィードバックされるのも良いだろう。

③ 情報発信

学校公開週間や学校行事などへの保護者の参加が少ないものの、関心そのものがないというわけではない。学校での授業の紹介・活動の様子をより具体的に発信することで、保護者の関心もより高まるのではないかと。

安全指導の面でも、避難訓練やセーフティ教室などの学校の取り組みが保護者に十分伝わっているとはいえない。たとえば、本校のホームページに、世田谷区の情報は掲載されているが、本校周辺のハザードマップや本校の災害時の引き取りマニュアルを掲載するなど、本校独自の安全指導情報をいつでも見られるようにしておくことも重要であろう。とりわけ、「令和6年能登半島地震」の発生により、保護者や生徒の防災に対する関心も高まっている。首都直下地震の危険性も叫ばれるなか、安全に関するいずれの項目もすべての学年で100%を目指したい。

最後に、本報告書を作成するにあたり、お忙しい中、アンケートやヒアリングなどにご協力いただいた皆様に、心から感謝申し上げます。貴校のますますの発展を祈念いたします。

以上